

岐阜県中部山岳国立公園  
活性化基本構想

平成29年7月  
岐 阜 県

# 清流の国ぎふ憲章

～ 豊かな森と清き水 世界に誇れる 我が清流の国 ～

岐阜県は、古来、山紫水明の自然に恵まれ、世界に誇る伝統と文化を育んできました。豊かな森を源とする「清流」は、県内をあまねく流れ、里や街を潤しています。そして、「心の清流」として、私たちの心の奥底にも脈々と流れ、安らぎと豊かさをもたらしています。

私たちの「清流」は、飛騨の木工芸、美濃和紙、関の刃物、東濃の陶磁器など匠の技を磨き、千有余年の歴史を誇る鶺鴒などの伝統文化を育むとともに、新たな未来を創造する源になっています。

私たち岐阜県民は、「清流」の恵みに感謝し、「清流」に育まれた、自然・歴史・伝統・文化・技をふるさとの宝ものとして、活かし、伝えてまいります。

そして、人と人、自然と人との絆を深め、世代を超えた循環の中で、岐阜県の底力になり、100年、200年先の未来を築いていくため、ここに「清流の国ぎふ憲章」を定めます。

「清流の国ぎふ」に生きる私たちは、

## 知

清流がもたらした

自然、歴史、伝統、文化、技を知り学びます

## 創

ふるさとの宝ものを磨き活かし、

新たな創造と発信に努めます

## 伝

清流の恵みを新たな世代へと守り伝えます

## 目 次

1. 構想の趣旨	… 1
2. 地域の特徴 ～飛騨山脈に育まれた大自然・温泉・食や文化～	… 3
3. 利用の現状	… 5
4. 活性化に向けた課題	… 7
5. コンセプト	… 9
6. 取組方針	…10
7. 関係団体と連携した取組の推進	…14

# 1. 構想の趣旨

## (1) 趣旨

中部山岳国立公園は、昭和9年に誕生した我が国最初の国立公園の1つであり、新潟県、富山県、長野県、岐阜県にまたがる飛騨山脈を中心とし、面積は約17万4千ヘクタールに及びます。

このうち、本県の面積は、約2万4千ヘクタールであり、その多くの、約2万ヘクタールを国民共有の財産である国有林が占めています。こうした区域には、日本を代表する乗鞍岳、槍・穂高連峰など8座の3千メートル峰が連なる山岳景観を有しており、山麓には、平湯大滝など景勝地、湧泉量国内第3位を誇る奥飛騨温泉郷が広がっています。

また、国内最高地を走る山岳道路・乗鞍スカイラインや国内唯一の2階建てゴンドラである新穂高ロープウェイといった特色ある交通アクセスが整備されており、これらを利用することで、誰もが気軽に雄大な山岳景観、ライチョウや高山植物といった貴重な動植物の姿を楽しむことができます。

このように、本県の中部山岳国立公園及びその周辺地域は、多くの魅力に恵まれた地域ですが、近年、入込者数の減少が続いており、地域の活力の低下が懸念されています。この地域の豊かな自然環境は、これまで、この地域の方々と行政が連携しながら保全を進めており、この地域の方々には、いわば国立公園における環境の保全の担い手として取り組んでいただいています。地域の活力が低下することで、こうした役割分担が困難になり、結果として自然環境の保全が困難になる可能性があります。

豊かな自然環境を保全し、次の世代に引き継いでいくためにも、地域の活力が持続されることは非常に重要であり、より多くの方々に魅力を体験していただきながら、中部山岳国立公園及び周辺地域の活性化を図ることが重要な課題となっています。

また、国においては、国立公園を世界水準の「ナショナルパーク」とすることにより訪日外国人利用者を平成32年度までに1千万人に増加させる目標を設定し、その達成に向けた施策を進められています。

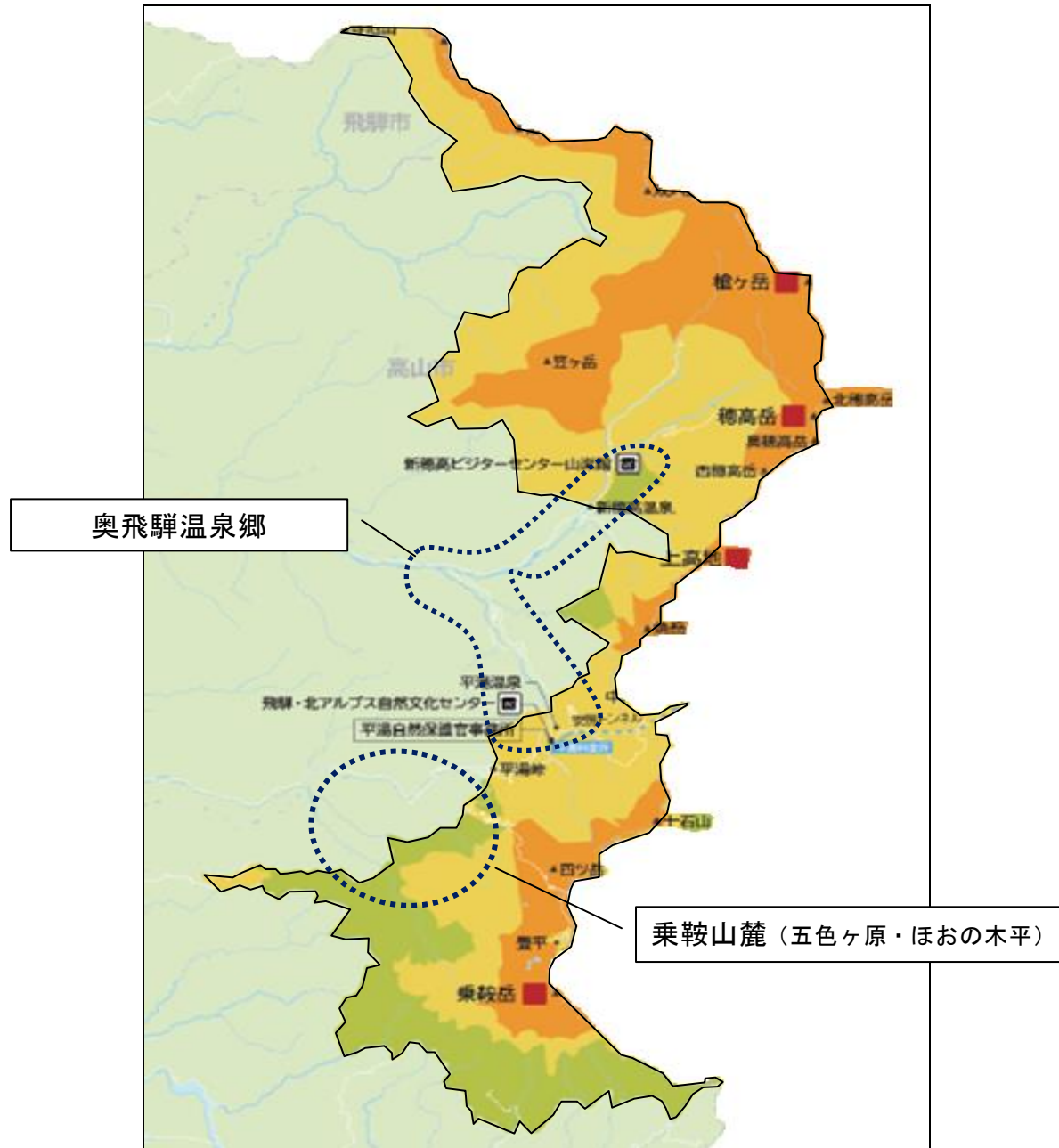
以上のようなことから、本書では、中部山岳国立公園の岐阜県内の活性化に向けて、コンセプトとその取組方針を明らかにし、今後の具体的施策の標となる基本構想を策定するものです。

## (2) 構想の対象エリア

構想の対象とするエリアは、中部山岳国立公園の本県区域及び同公園の区域に隣接しており、活性化を進めるうえで一体的に考える必要がある乗鞍山麓エリア及び奥飛騨温泉郷エリアとします。

## 図 この構想の対象エリア

国立公園の区域（オレンジ・黄色・黄緑に着色されたエリア）及び国立公園に隣接している乗鞍山麓・奥飛騨温泉郷エリア（点線で囲んだ部分）を対象とします。



(注) 図のエリア外で行われている取組みであっても、中部山岳国立公園内の利用拠点と密接に関連している岐阜県内の取組みについては、本構想の対象とする。

## 2. 地域の特徴 ～飛騨山脈に育まれた大自然・温泉・食や文化～

### (1) 国立公園に広がる大自然

中部山岳国立公園の本県区域には、乗鞍岳、槍・穂高連峰などの3,000m級の急峻な山々が連なり、変化に富む山岳景観が広がっています。また、高山帯には、ライチョウや高山植物といった貴重な動植物が生息しています。

国立公園内には豊かな森が広がり、特に、乗鞍岳は、飛騨山脈の中で最も広い山域を持ちその山域面積は約2,500haにも及びます。山麓には、乗鞍山麓五色ヶ原の森や日本の滝百選にも選ばれている平湯大滝など、豊かな森と水に恵まれた大自然が広がっています。

そして、この地域の大きな特徴として、高山帯と山麓部を結ぶ交通手段が整備され、容易にアクセスできることが挙げられます。日本最高所を走る山岳道路「乗鞍スカイライン」を利用すれば、交通機関で移動できる日本最高所「乗鞍畳平」

(標高2,702m)を訪れることができます。また、新穂高温泉から西穂高岳中腹の千石平までは、国内唯一の2階建て Gondola「新穂高ロープウェイ」が通じており、標高2,156mまでロープウェイを使って登ることができます。



乗鞍スカイライン

新穂高ロープウェイ(国内唯一の2階建て) 乗鞍山麓 五色ヶ原の森

ライチョウ(夏)

こうした大自然は、登山やトレッキングなどのアクティビティをはじめとして、貴重な動植物の生態や高所ならではの星空の観察にも適しており、多様な利用が行われています。また、生態系、地球温暖化、宇宙線、火山、砂防等の学術研究のフィールドとしても利用されています。

また、特に乗鞍岳においては、マイカー規制に加え、環境保全に特化した目的税である乗鞍環境保全税や乗鞍山麓五色ヶ原の森におけるガイド付き入山の義務化といった、国内で初めてとなる先進的な環境保全の取り組みにより、自然環境の保全・回復が進められているのも大きな特徴です。

### (2) 奥飛騨の温泉

山麓にある奥飛騨温泉郷は、国立公園区域内に入る平湯温泉、新穂高温泉と福地温泉、新平湯温泉、枳尾温泉の5つの温泉からなっています。

奥飛騨温泉郷全体の湧泉量は、別府温泉、湯布院温泉に次ぐ国内第3位を誇り、その豊富な湧泉量を活かした共同浴場や露天風呂なども多く、露天風呂の数は国内第1位といわれています。

奥飛騨温泉郷は広大な温泉地であり、国立公園区域内に多くの温泉が位置することから、大自然の中で、笠ヶ岳、焼岳、槍・穂高連峰などの四季折々の美しい山岳景観や、秘境の風情を楽しむことができ、大きな魅力となっています。



奥飛騨温泉郷



平湯温泉とアカンダナ山(全域が国立公園区域)

### (3) 飛騨地方の食や文化

国立公園の周辺地域は、本県を代表する飛騨牛をはじめとして、夏の冷涼な気候と清流が育む高冷地野菜や飛騨の山椒といった食に恵まれ、朴葉味噌などの独特の食文化を楽しむこともできます。

また、この地域には、県の重要無形民俗文化財に指定されている鶏芸や、各地の神社に奉納される獅子舞など、特色豊かな様々な祭礼行事が現在まで残されています。こうした民俗文化のほかにも、江戸時代に全国各地を旅した美濃の僧侶・円空上人作として伝わる仏像（円空仏）が数多く残されているなど、多くの史跡が今に伝わっています。

このほかにも、毎年5月には、北アルプス岐阜県側の開山祭が、笠ヶ岳を再興した播隆上人の名を冠した「播隆祭」として開催されるなど、山岳にまつわる歴史や伝承が大切に伝えられています。



飛騨牛



朴葉味噌



鶏芸(一重ヶ根地域)



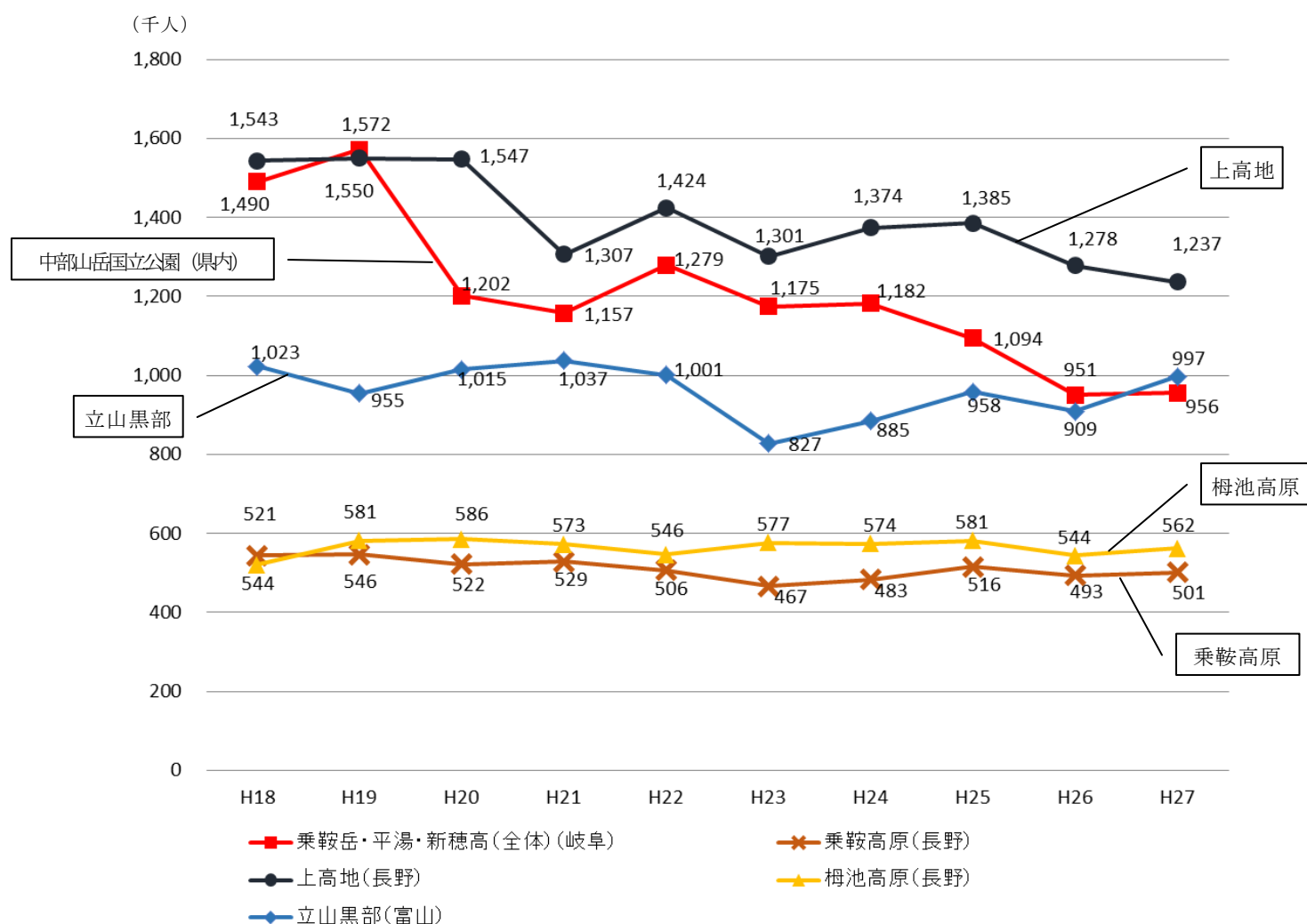
獅子舞

### 3. 利用の現状

平成18年から平成27年までの中部山岳国立公園の主要地点における入込者数の推移は、下図及び下表のとおりです。

最近10年間の推移をみると、立山黒部（富山県）、梅池高原・乗鞍高原（長野県）では、入込者数は横ばい又は漸増となっていますが、岐阜県側（全体）と上高地で入込者数が減少しており、特に中部山岳国立公園（県内）の入込者数が大きく減少しています。

中部山岳国立公園（主要地点）の入込者の推移



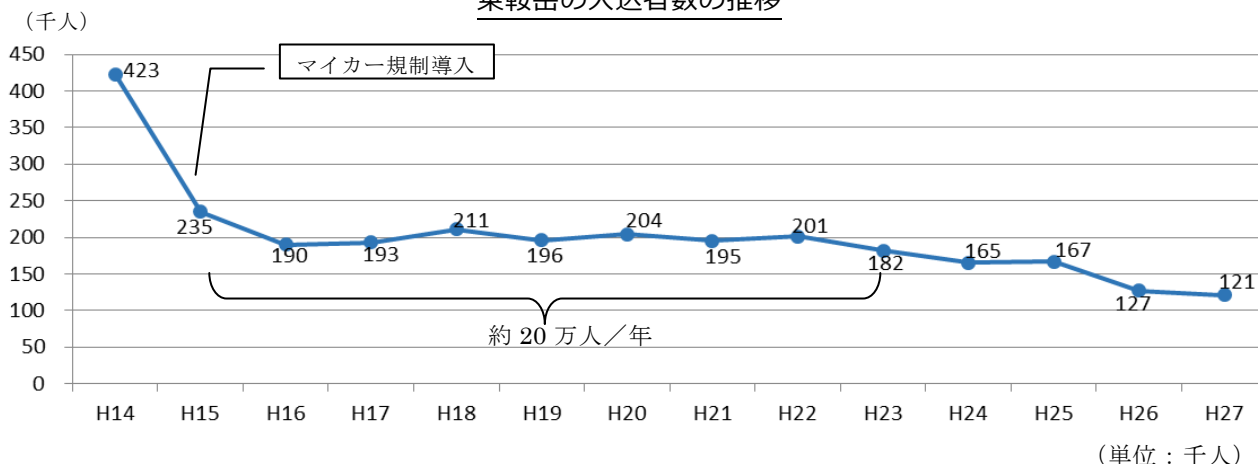
主要地点	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
中部山岳国立公園（県内）	1,490	1,572	1,202	1,157	1,279	1,175	1,182	1,094	951	956
乗鞍高原（長野）	544	546	522	529	506	467	483	516	493	501
上高地（長野）	1,543	1,550	1,547	1,307	1,424	1,301	1,374	1,385	1,278	1,237
梅池高原（長野）	521	581	586	573	546	577	574	581	544	562
立山黒部（富山）	1,023	955	1,015	1,037	1,001	827	885	958	909	997

（出典）長野県観光地利用者統計調査、富山県公表資料、岐阜県環境生活部調べ（いずれも H18～27 年）



入込者数の減少が大きい岐阜県側のうち、特に減少が大きくなっているのが、乗鞍岳です。平成15年度のマイカー規制以降、約20万人で推移していましたが、平成27年には約12万人と40%以上も大きく落ち込んでいます。

乗鞍岳の入込者数の推移



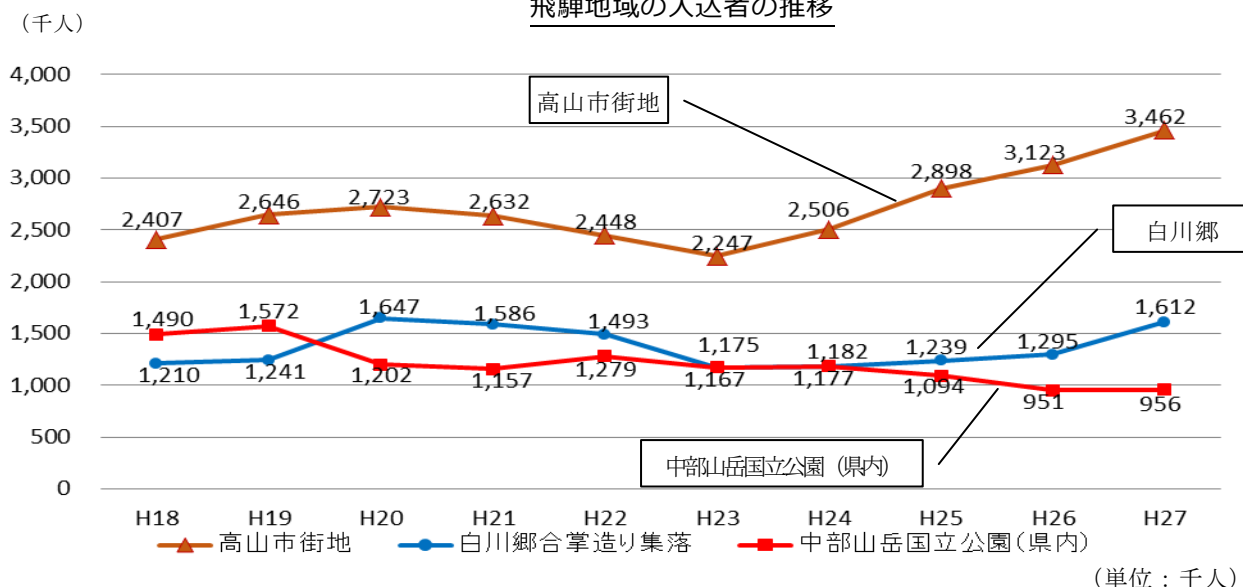
年度	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
入込者数	423	235	190	193	211	196	204	195	201	182	165	167	127	121

(出典) 乗鞍自動車利用適正化協議会調べ

一方、最近10年間の飛騨地域の主要観光地の入込者数と比較すると、高山市(市街地)や白川郷合掌造り集落では、平成23年以降、入込者数が増加していますが、中部山岳国立公園では入込者数の減少が続いています。

平成26年以降の大きな落ち込みについては、高速ツアーバスの規制強化が大きく影響しているものと考えられますが、こうした要因のほかにも、「大自然」をはじめとするこの地域の魅力が十分に伝えられていないことが考えられます。

飛騨地域の入込者の推移



主要地名	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
高山市街地	2,407	2,646	2,723	2,632	2,448	2,247	2,506	2,898	3,123	3,462
白川郷合掌造り集落	1,210	1,241	1,647	1,586	1,493	1,167	1,177	1,239	1,295	1,612
中部山岳国立公園(県内)	1,490	1,572	1,202	1,157	1,279	1,175	1,182	1,094	951	956

(出典) 岐阜県観光統計、岐阜県環境生活部調べ

## 4. 活性化に向けた課題

訪問者に対して、この地域の魅力を十分に伝えるため、不足していると考えられる取組みや課題について検討したところ、次のような課題があることが明らかとなりました。

### (1) 地域の強みに対する認識

この地域には、自然環境、温泉、食・文化といった強みが数多く存在していますが、そうした地域の強みを体験し、認識を深めるための取組みが十分ではなく、結果として、地域の強み同士（自然環境と温泉、自然環境と文化など）を連携させる取組みや情報発信につながっていない状況にあります。

訪問者に対して、余すところなく魅力を伝えるためには、地域の人々が貴重な資源を十分に理解する必要があり、そのための取組みが求められています。

### (2) 国立公園利用の玄関口となる利用拠点

この地域には、ライチョウや高山植物といった稀有な自然環境のほか、乗鞍山麓五色ヶ原の森や平湯大滝など豊かな自然環境を体験できる場所が身近に数多く存在しています。

しかし、国立公園の自然、歴史、見どころ情報、自然体験、利用ルールの周知、危険情報などを一元的に入手できる拠点が不足しています。

これらの情報を一元的に入手できる総合的な利用拠点を整える必要があります。

### (3) 雨（曇り）の日や冬季の楽しみ方

快晴時の山岳景観は、素晴らしい絶景で訪問者を十分に楽しませることができますが、雨や曇りといった天候不順時や冬季における自然の楽しみ方が訪問者に十分に提供できておらず、訪問者が少なくなっています。

しかし、曇天時には乗鞍山頂でライチョウを確認しやすいことや、雪上を歩くスノートレッキングの利用が各地で増え始めていることなどを参考に、天候不順時や冬季の魅力を発掘し、磨き上げ、情報の発信強化を図り、更なる楽しみ方を提供していくことが求められています。

### (4) 多様な訪問者の受入態勢

乗鞍岳には交通機関で行ける日本最高所があり、高齢者や障がい者にとっても高山帯の自然に触れられる貴重な場所です。しかしながら、歩道やトイレなどについて、お年寄り・障がい者などに配慮した対応が十分ではありません。また、増加している外国人訪問者に対しても、多言語表記のパンフレットや案内表示、Wi-Fi環境などの対応が十分ではなく、誰もが訪れ、楽しむための受入態勢が十分ではない状況にあります。

そのため、誰もが容易に訪れることができるユニバーサルデザイン化された受入態勢の整備が求められています。

#### **(5) 既存の自然公園施設の老朽化**

国立公園内には、公園を快適に利用していただくため、トイレ、案内看板や遊歩道といった施設を設置しています。しかし、設置から年数が経過し、施設の老朽化が進んでおり、快適な利用に向けて、改善が必要な状況があります。

国内外の訪問者に安全・快適に利用していただくため、施設の老朽化に対する対応を進める必要があります。

#### **(6) 自然と地域を守り伝える担い手**

この地域の自然環境を守りながら、後世に伝えるためには、自然環境や地域の魅力を十分に理解し、訪問者に伝えることができるガイドなどの人材が、この地域で活躍できる環境を整えることが必要です。

ガイドの育成をはじめとする人材の育成や活躍するための環境の整備が求められています。

## 5. コンセプト

誰でも体験できる3,000m級の高山帯、  
飛騨<sup>ひだびと</sup>人のもてなしと露天風呂めぐり

活性化の取組みを進めるに当たっては、本県をはじめ、高山市やこの地域の関係団体が一体となって取組みを進める必要があります。

この地域には、

- ・乗鞍スカイラインや新穂高ロープウェイを利用し、誰でも高山帯の大自然を満喫できる
- ・山麓で「飛騨人（ひだびと）」が育んだ食や文化を満喫しながら、露天風呂数日本一の奥飛騨温泉郷で癒やし・安らぎが得られる

という、ここにしかない大きな特徴があります。

こうした大きな特徴を最大限に活かしながら、より多くの方々にこの地域を訪れていただき、活性化を図るため、取組みのコンセプトを設定します。

## 6. 取組方針

### (1) 全体像

活性化の取組方針は、本県の「清流の国ぎふ」づくりの基本理念である「清流の国ぎふ憲章」の3つの考え方「知」「創」「伝」に沿って、次のとおり設定します。

#### <中部山岳国立公園活性化に向けた取組方針>

##### 【コンセプト】

誰でも体験できる3,000m級の高山帯、  
飛騨<sup>ひだびと</sup>人のもてなしと露天風呂めぐり

##### 【方針1】豊かな地域資源を「知る」

- 豊かな地域の魅力を知り、誇りを醸成
- 飛騨山脈の「大地と自然の恵み」を学ぶ

##### 【方針2】強みを活かし魅力・活力を「創る」

- 乗鞍・奥飛騨の魅力の発掘・磨き上げ・発信
- 持続的な活力の創出

##### 【方針3】乗鞍・奥飛騨らしさを守り、後世に「伝える」

- 自然の保護と利用の両立
- 乗鞍・奥飛騨の魅力を守り伝える人づくり

## (2) 取組方針の考え方

取組方針ごとの考え方や考えられる取組みの例は、以下のとおりです。

なお、コンセプト・取組方針を具体化するに当たっては、この地域の訪問者の訪問目的やニーズなどを調査し、明らかにしたうえで、対象とすべきターゲットや目標を明確にして進めることとします。

### 【方針1】 豊かな地域の資源を「知る」

#### 1 豊かな地域の魅力を知り、誇りを醸成

この地域の強み同士の連携や地域からの情報発信を進めるためには、地域の方々が、強み（資源）を実際に理解し、誇りを持つことが特に重要です。そこで、この地域の将来の担い手である子どもたちを中心に、地域の魅力を学び、実際に体験してもらいながら、誇りを育てる取組みを進めます。

##### <取組みの例>

- ・ 地域の人々が乗鞍・奥飛騨の魅力を学び、伝え、誇りを持つ機会の創出
- ・ 地域の人々が訪問者に魅力を語るための場づくり

#### 2 飛騨山脈の「大地と自然の恵み」を学ぶ

貴重な動植物を観察できる高山帯をはじめ、山岳景観、滝、豊富な温泉といった自然環境は、飛騨山脈の造山運動や火山活動などによって生み出された「大地と自然の恵み」です。

訪問者が、大地と自然の恵みについて気軽に学び、大自然を体験することができるよう、自然環境教育の拠点整備を進めるとともに、拠点を活用した学習旅行などの受入態勢づくりを進めます。

##### <取組みの例>

- ・ 「飛騨山脈ジオパーク構想」の取組みと連携した学習ツアーの開発
- ・ 自然環境教育拠点の整備
- ・ 学習旅行等の誘致・受入態勢づくり

## 【方針2】 強みを活かし、魅力・活力を「創る」

### 3 乗鞍・奥飛騨ならではの魅力の発掘・磨き上げ・発信

この地域は、天候不順時や冬季における楽しみ方をはじめ、磨き上げることができる魅力がまだあると考えられ、訪問者の滞在時間を延ばすためにも工夫の余地があります。

地域の強み同士を連携させる取組みや国立公園の情報発信拠点の整備等を通して、訪問者の方々が長期にわたって滞在したり、何度も訪れたいくなるような魅力の発掘、磨き上げ、発信を進めます。

#### <取組みの例>

- ・ 自然、温泉、食を活かした地域の魅力の向上
- ・ 雨（曇り）の日や冬季にも楽しめる「乗鞍・奥飛騨の楽しみ方」の仕組みづくり・発信
- ・ 国立公園の魅力を伝えるための情報発信拠点の整備
- ・ 上質な滞在空間の提供
- ・ 安全安心な登山環境づくり

### 4 持続的な活力の創出

国立公園の豊かな自然環境を維持していくためには、活力のある地域を維持することが必要です。

持続的な活力の創出に向けて、多様な訪問者を受け入れるための環境や受入態勢の整備を進めるとともに、豊富な地域の資源を活かした人材の育成を進めます。

#### <取組みの例>

- ・ ガイドが活躍できる体制づくり
- ・ 利用者受入態勢の整備（多言語表記、バリアフリー、Wi-Fi、ツアーデスク等）

## 【方針3】 乗鞍・奥飛騨らしさを守り、後世に「伝える」

### 5 自然の保護と利用の両立

この地域では、乗鞍環境保全税を財源とする環境保全や乗鞍山麓五色ヶ原におけるガイド同伴者以外の入山制限など、先進的な環境保全の取組みを進めています。

こうした環境保全の取組みを継続しながら、環境が損なわれない範囲でその素晴らしさを体験していただくための取組みを進めます。

#### <取組みの例>

- ・ 先進的な環境保全対策の継続・進化
- ・ 人数を限定したガイド付きツアーによる貴重な自然環境の体験
- ・ 利用マナーの啓発や情報提供を行うための拠点整備
- ・ 景観や生態系に配慮した自然公園施設づくり

### 6 乗鞍・奥飛騨の魅力を守り伝える人づくり

「大自然」「温泉」「食や文化」といったこの地域の魅力を守りながら、訪問者に魅力を伝えるためには、地域の魅力を十分に理解した、質の高いガイドなどの人材を育成することが重要です。

質の高いガイドの育成を進めるとともに、地域を担う人材としての活躍が期待される若年層に対する取組みなど、環境を守り伝える人づくりを進めます。

#### <取組みの例>

- ・ 質の高いガイド（自然・地質・登山等）の育成
- ・ 大学生、高校生等に対するガイド体験学習会
- ・ 小中学生の自然保護意識の向上、学習旅行の誘致（再掲）



## 7. 関係団体と連携した取組の推進

国、県、高山市、地元観光協会、民間企業、地元各種団体等、飛騨市、白川村、隣接する長野県松本市（上高地、乗鞍高原）、中部山岳国立公園の関係県である新潟県、富山県、長野県、その他国立公園の活性化を志す各種団体と連携して、活性化を推進します。

### （1）基本計画（仮称）の策定

この構想に基づく取組みを具体化するため、本県、高山市及び地域の関係団体が、それぞれ実行できる内容を持ち寄って検討を進め、平成29年末までに「岐阜県中部山岳国立公園活性化基本計画（仮称）」を策定します。

### （2）計画の実行

構想を実現するため、本県、高山市及び地域の関係団体が、主体的に取組みを進めます。また、より高い効果を得ることができるよう、それぞれの主体間で十分な連携を図ります。

### （3）進捗状況の管理と見直し

この構想及び基本計画（仮称）に基づく取組みについては、地域の関係者や関係行政機関で構成する組織において、毎年、評価と検証を行い、必要な見直しを行いながら進めます。